滋賀・大戌亥（おおいぬい）遺跡

1　所在地　滋賀県長浜市大戌亥町・勝町
2　調査期間　一九九三年（平5）四月～一〇月
3　発掘機関　滋賀県教育委員会・㈶滋賀県文化財保護協会
4　調査担当者　吉田秀則・重田　勉
5　遺跡の種類　祭祀跡
6　遺跡の年代　八世紀末～九世紀初頭
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

大戌亥遺跡は琵琶湖の北東部に位置しており、その北方には湖北の大流、姉川が流れている。古くから長浜平野には姉川の氾濫により無数の支流が形成され、発掘調査においても多数確認されてきた。当遺跡では過去の調査において、人形代・斎串などの祭祀遺物や比較的規模の大きい掘立柱建物などが検出されており、公的施設の存在が考えられてきた。

（長　浜）

今回の調査では、奈良時代～平安時代初頭の遺物を包含する自然流路や、若干時期が新しい掘立柱建物などが検出され、自然流路からは多量の祭祀遺物が確認された。現在のところ、人形代二一点、斎串五〇点以上、その他祭祀に関連すると思われる木製品・鉄製品・動物遺存体などがある。土器も多量にあり、主に須恵器と土師器であるが、須恵器の形態を有した土師器、いわゆる湖北地方独特の「赤い須恵器」や、墨書土器（判読不能）、奈良三彩などもある。木簡はこの自然流路から出土した。

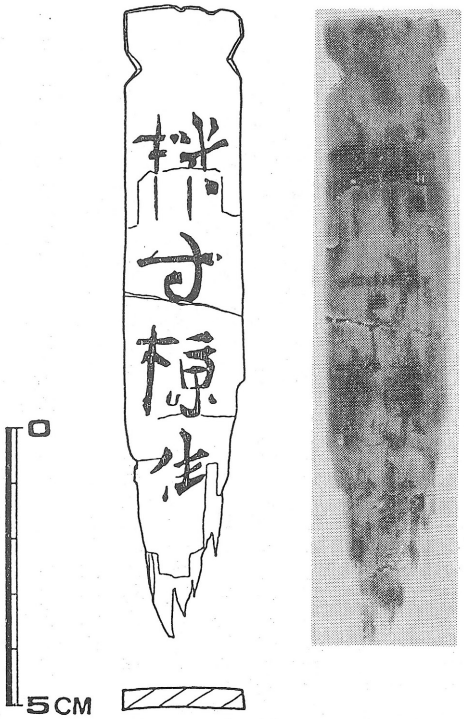
なお、祭祀遺物は遺存状態が良好で、祭祀の行なわれた場所（今回の調査地点よりやや上流〔北東方向〕か）からの移動距離も短いと考えられる。当時の祭祀形態をそのまま保っている可能性があり、貴重な資料となろう。また、当遺跡の東方には、第一・第二次の坂田郡衙推定地とされる、大東遺跡・宮司遺跡があり、今回出土した遺物は諸国大祓に伴うものとみる考え方もある。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「〈播寸掠御　(115)×22×4　033

木簡は頭部左右に切り込みがある荷札状のもので、下端部は欠損しているが、下端を尖らせる形状をとると判断されるので、完形の長さを大きく下回るものではなさそうである。なお四字めは「伴」の可能性もある。

（重田　勉）


0
5CM